

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970400267		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ふなの里		
所在地	高知県南国市下島丙179番地1		
自己評価作成日	平成25年8月28日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は周囲に民家や建物も少なく、静かで日当たりのよい環境のなかで、穏やかな暮らしを営んでいただけます。
 過疎が進みつつある地域の中で一斉清掃への参加、資材や農作物などの差し入れなど、顔と顔でつながる双方向の交流を行っており、大湊保育園と連携をしながら運動会の見学招待や中庭の畑でのさつまいもの苗植え・収穫を行うなど、世代間交流への取り組みも行ってまいります。
 利用料金については、低所得の方でも入居可能な金額となっており、入居者様やご家族の希望に応じて、同法人が運営している介護保険施設がご利用していただけるようバックアップを行い、状態に応じて継続的なケアが行えるような体制づくりを行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3970400267-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年10月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海岸近くの静かで自然豊かな環境の中にあり、利用者は広い敷地内で野菜作りや散歩を楽しみながら穏やかな生活を送っている。地域は高齢化、過疎化が進んでいるが、事業所は早くから自治会に加入して、地域の行事に利用者と一緒に参加し、事業所主催の行事には地域住民に参加してもらうなど、事業所と地域の長い付き合いのもとで信頼と協力関係を築いている。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にするとともに、職員が利用者への理解を深めることで業務に価値と誇りをもって取り組めるように、職員の資質の向上と育成に力を注いでいる。職員も利用者が安全かつ安心して暮らせるよう、日々のケアに注意を払い、利用者寄り添って支援している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: はまひろがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合うようにしている。管理者からの発信だけでなく職員からのボトムアップも行っている。	事業所の理念は、職員会や申し送り時などに振り返りが行われ、利用者への日々の言動から職員自身が気づきを持てるよう取り組んでいる。「愛情」が理念の基本にあり、全職員が理念を踏まえて利用者に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動や運営推進会議等での意見交換を通じて顔と顔でつながる地域交流ができています。地域の防災計画への参加や公民館での地域の敬老会への招待もあり、事業所が地域の中の一員としての役割が担えるよう、双方向の関わりが行っている。	自治会に加入し、地域の行事(清掃活動・運動会・敬老会など)に参加して顔なじみになり、地域の人から旬の野菜等を差し入れてもらうなど交流が行われている。また、保育園児とは事業所の畑で芋の苗植えや芋堀りを通じて交流を密にしており、利用者も園児の訪問を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居しやすい料金設定であるとともに、入居希望者のご家族の方からの相談も受けている。その際には関係機関(居宅支援事業所、病院の地域連携室、地域包括支援センター)との連携に努め、地域のネットワークの中に参加できるよう取り組んでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会を通じて、ご家族様からのご意見や、地域の中のご要望がないか伺う機会になるとともに、出てきたご意見は運営の中で取り組み、サービス向上に努めている。防災面では自治体とご家族様・地域・事業所が話し合うことができる貴重な場となり、活発な意見・情報交換が行われている。	運営推進会議では意見交換が活発に行われ、環境美化の意見について職員会で検討し、改善につなげた例もある。ただし、運営推進会議の家族の参加が固定する傾向にあり、新入居の利用者の家族にも働きかけて、新しい視点で意見をもらうよう努めている。	家族の参加を広く呼びかけるとともに、災害対策や目標達成に向けた課題について、必要があれば専門家に依頼しメンバーで学習するなど、運営推進会議を更なるサービス向上につなげる場として活用していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を主としながらも、わからないことがあればすぐに電話で聞くなど確認を行い、サービスの向上につなげている。	市担当者には運営推進会議以外に、月1回の現状報告や制度上不明な点を問い合わせることで連携をとっている。また今後、他の事業所との勉強会にも参加し、市担当者や事業所間との連携を密にする取り組みも予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、マニュアルを基に尊厳への理解を進め、身体拘束を行わないケアの方法を日々のケアの中に落とし込めるようにしている。	法人主催の年2回の研修会や月1回の身体拘束廃止委員会に参加し、参加者が事例検討や意見交換の結果を全職員に伝達して理解を深めている。利用者の行動を妨げないよう、常に人数確認や見守りによる危険防止に努めながら、拘束のない生活につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、認知症高齢者への理解と、職員一人一人の自己覚知を進めていくように取り組みを行い、また日々の業務の中で抱える問題点を相談しやすい職場作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、職員や家族にも説明し情報提供している。また事業所内で対象者がいないか検討したり、活用できるよう知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約時に文書を見ながら時間をかけて、質問、疑問等は解決できるように説明し同意を得ている。また随時電話等でも相談を受け付けている。また改定時にも同様に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回設け、苦情は事業所改善の機会ととらえて、積極的に改善するように取り組んでいる。また、家族会で出た問題は運営推進会議でも取り上げて話し合いをしている。	遠足、バーベキュー、忘年会などの行事を利用して年4回家族会を開催している。家族からは防災に関する意見が多く出され、必要な協力の申し出もあり、意見を踏まえて職員会や運営推進会議で具体的な対応策を検討し、反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるように取り組んでいる。	管理者は交代して間もないが、職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案を出しやすい雰囲気と環境づくりに努めている。提案事項は細かいことでも申し送りや職員会で検討し、業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を基に個別面接を行い、能力や経験に合わせた指導や自己能力開発につながるよう取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け、職員会で報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内でのグループホームとは毎月勉強会を行っている。また、関連の事業所との研修会等に参加し情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人様に見学に来ていただき、不安や疑問を軽減できるよう努めている。また待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居や申し込みに際して、介護保険サービスについてわからないことや介護上での困りごとなどのヒヤリングを行い、気軽に相談ができるよう信頼関係が構築できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある場合は法人内外の関連機関と連絡調整を行い、サービスを利用していただけるよう対応している。また市にも相談に応じてもらうように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先達である入居者様には、日常生活の中で生活の知恵や家事などについて教えてもらう場面も多くあり、また介護が必要となっても感謝のやりとりを大切に、職員と共におかげさま・おたがいさまの共同生活を構築するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも可能な限り入居者様の生活に関わっていただけるように支援している。また、ご家族様ができることを申し出ていただくことも多く、事業所とご家族様が協力関係のもと入居者様の人生を支えるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけではなく友人や知人の面会や交流も多く見られている。また、ご家族様と共に馴染みの美容室や食堂に行かれる入居者様もおられるため、好きなことや馴染みの場所の聞き取り等に努めている。	近隣住民、元同僚、時には利用していたタクシーの運転手等の訪問があり、関係継続の支援をしている。希望の馴染みの場所以外にも、その地域の名の知れた場所を訪れ懐かしさを感じてもらっている。また、携帯電話の充電にも配慮し、家族や友人と連絡する利用者の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお互いに関わりを持ち、協力し合って生活できるように重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごす環境や場面づくりを行っている。最近では入居者同士で歩行時等に声援を送る場面もみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であってもご家族様から次の施設への入居や、現在の生活についての相談を受けるなど退居後も継続して関係を保っている。また、亡くなられた時には葬儀にも参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に寄り添い、その人の思いや意欲に関心を寄せて接することで、日々の言葉や表情の変化などから、したいことや意向を把握したり、くみ取るよう努めている。	思いや意向を伝えられる利用者が多いが、意思疎通の困難な利用者には表情や言葉から思いや意向を汲み取り、ケアに反映するよう努めている。寡黙な利用者には職員が1対1で寄り添い、徐々に自分の思いを表出できるようになった事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞きとり共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のできること、わかる力などの現状を把握し、意欲的に過ごしていただけるよう働きかけ、またその日の状態に応じて柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様との関わりの中で思いや意見を聞きとり、全職員でカンファレンスを行い介護計画に反映させている。	個々の利用者に関する情報はカンファレンスの中で全職員から収集を行い、家族からは主に電話や連絡だよりから意向等を確認し、介護計画に反映させている。計画は基本的に3カ月毎の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所や町内会と連携したり、消防署や地域の自主防災会、地域の代表者との関係を築き、入居者様が安心して暮らしを楽しめることができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時受診対応も行っている。	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医に選び、月2回の往診を受け、月2回訪問看護師が来所している。専門医への受診は、基本的に家族の対応であるが、必要に応じて職員が同行するなど柔軟に支援している。受診結果は医療連携記録により全職員が把握し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人内の訪問看護ステーションと連携し、小さいことも気軽に相談したり、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換をしながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応など、入居時や状態変化のある度に話をしている。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。	本人や家族の希望に沿えるよう、協力医、訪問看護師と連携をとって看取りを行う体制を整えている。これまでに重度化した利用者はいたが、家族の意向で入院となり、事業所で看取った事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、消防署の協力で普通救命講習を全員が受講し、対応方法を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、防火訓練や地震想定訓練を実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や消火機器の使用訓練などを行っている。	昼間と夜間を想定した防火訓練や職員を対象とした夜間呼集、消火機器使用の訓練を実施している。訓練時には地域住民の参加や協力を得ている。本年度から法人の方針により訓練を1回増やして年3回となり、実施に向け計画中である。	防火訓練の結果を踏まえた今後の避難訓練のあり方や、完成予定の地域の避難タワーも取り入れた津波想定訓練について、具体的な訓練内容を運営推進会議等で検討し、訓練に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で尊厳の保持に取り組んでおり、職員会でも入居者の誇りやプライバシーを損ねることのない声かけや対応について話し合っている。	トイレ誘導時には周囲に配慮し、主に視線や表情などの合図で誘導するようにしている。面会簿は他の面会者の目に触れないように注意し、プライバシーを損ねる言葉があればミーティング時に話し合って再発を防ぐようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提示したり、簡単に意思表示できるように工夫するなど、自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者様の生活のペースを大切に、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行っていたり、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、馴染みの美容室や訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族様や地域の方から旬の野菜をいただいたり、また自分たちで育てた野菜が食卓にのぼることもある、夏のバーベキューなどの行事ではご家族様、職員も参加し、にぎやかな雰囲気の中で食事を楽しめるよう支援している。	調理を手伝える利用者は少ないが、後片付けに積極的に参加する利用者は数人あり、介助が必要な利用者には職員が話しかけながら、ゆっくり食事をしている。事業所で採れた野菜や近隣からもらった野菜なども献立に取り入れ、利用者からは「食事が一番楽しみ」との声が聞かれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てているが、食べにくかった食材やメニューなどは相談して、食べやすい献立になるように努めている。また普段の摂取の様子から摂取量・水分量、嗜好を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがい等の口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるようさりげなく誘導し、自尊心を損なうことのないケアを心がけている。	基本的には2時間毎のトイレ誘導を目安に、利用者の状態に応じた支援をしている。トイレに座ることにより排泄習慣が身につく、自然排尿が得られるようになった利用者もいる。紙パンツや尿パッドの使用量も少なくなり、経済的な効果にもつながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や、家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の好きな時間に入浴ができるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。	各ユニットの職員が連携して協力体制をつくり、利用者は希望する時間に入浴できている。入浴拒否のある利用者に対しては拒否感を和らげ、温泉に入る気分で誘導するなどの工夫を凝らし、入浴につなげている例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはご本人様のペースで過ごしていただき、職員とも一対一でゆっくり関わりを持ち安心していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできること・したいことを把握し、一人一人に応じた役割を担ってもらったり、楽しみ事や生きがいにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブのほか、季節の花を見たり地域の行事に参加するなど、個々のニーズに沿った外出支援を行っている。また、ご家族様の協力も得て外出もしている。	日常的な外出は、利用者の身体的な状態に応じて個々の希望を聞きながら支援している。散歩以外に、神社の参拝を希望する利用者同行するなど、意向に沿いながら支援を行っている。また、行事計画により、季節の花見等の遠出の外出も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを持たれている方もおり、買い物時は本人が支払う場面づくりをするなどして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける方は毎月のお便りに書き添えてもらったり、電話で話ができる方には家族との電話を取り次ぐなどの支援をしている。また携帯電話を持たれている入居者さまもおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に家具等の配置について意見を聴くなど、自分の居場所という安心感と意識を持ってもらえるように支援し、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	共用空間には車椅子の利用者も多く、通行の妨げにならないよう通路が整備され、壁には利用者や家族の作品(写真・人形・編み物など)が展示され心を和ませる空間にしている。また、四季折々の行事には、その都度飾り付けがされ、利用者に季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置くなど、仲のよい入居者様同士で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力を得ながら家具や馴染みのもの、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾りつけるなど、居心地よく過ごせるように支援している。	居室にはお気に入りの衣装がかけられたり、持参のテレビ、自作の絵画、家族が持参した写真などが飾られ、自宅の一室でくつろげるような環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かるように表札を出したりする、など入居者様が安全で自立した生活が送れるよう環境を整えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: たちばな

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合うようにしている。管理者からの発信だけでなく職員からのボトムアップも行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動や運営推進会議等での意見交換を通じて顔と顔でつながる地域交流ができています。地域の防災計画への参加や公民館での地域の敬老会への招待もあり、事業所が地域の中の一員としての役割が担えるよう双方の関わりが行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居しやすい料金設定であるとともに、入居希望者のご家族の方からの相談も受けている。その際には関係機関(居宅支援事業所、病院の地域連携室、地域包括支援センター)との連携に努め、地域のネットワークの中に参加できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会を通じて、ご家族様からのご意見や、地域の中でのご要望がないか伺う機会になるとともに、出てきたご意見は運営の中で取り組み、サービス向上に努めている。防災面では自治体とご家族様・地域・事業所が話し合うことができる貴重な場となり、活発な意見・情報交換が行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を主としながらも、わからないことがあればすぐに電話で聞くなどの確認を行い、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、マニュアルを基に尊厳への理解を進め、身体拘束を行わないケアの方法を日々のケアの中に落とし込めるようにしている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、認知症高齢者への理解と、職員一人一人の自己覚知を進めていくよう取り組みを行い、また日々の業務の中で抱える問題点を相談しやすい職場作りに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、職員や家族にも説明し情報提供している。また事業所内で対象者がいないか検討したり、活用できるよう知識向上に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>申し込み時や契約時に文書を見ながら時間をかけて、質問、疑問等は解決できるように説明し同意を得ている。また随時電話等でも相談を受け付けている。また改定時にも同様に同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年4回設け、苦情は事業所改善の機会ととらえて、積極的に改善するよう取り組んでいる。また、家族会で出た問題は運営推進会議でも取り上げて話し合いをしている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課表を基に個別面接を行い、能力や経験に合わせた指導や自己能力開発につながるよう取り組んでいる。また、研修にも参加できる機会を設け、職員会で報告している。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同一法人内でのグループホームとは毎月勉強会を行っている。また関連の事業所との研修会等に参加し情報交換している。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>可能な限りご本人様に見学に来ていただき、不安や疑問を軽減できるよう努めている。また待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居や申し込みに際して、介護保険サービスについてわからないことや介護上での困りごとなどのヒヤリングを行い、気軽に相談ができるよう信頼関係が構築できるよう配慮している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急性のある場合は法人内外の関連機関と連絡調整を行い、サービスを利用していただけるよう対応している。また市にも相談に応じってもらうように働きかけている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先達である入居者様には日常生活の中で生活の知恵や家事などについて教えてもらう場面も多くあり、また介護が必要となっても感謝のやりとりを大切にし、職員と共におかげさま・おたがいさまの共同生活を構築するよう取り組んでいる。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ご本人様のできること、わかる力などの現状を把握し、意欲的に過ごしていただけるよう働きかけ、またその日の状態に応じて柔軟に対応している。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人様、ご家族様の関わりの中で思いや意見を聞きとり、全職員でカンファレンスを行い介護計画に反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を活かし、本人や家族が安心して生活できるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>保育所や町内会と連携したり、消防署や地域の自主防災会、地域の代表者との関係を築き、入居者様が安心して暮らしを楽しめることができるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時受診対応も行っている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同一法人内の訪問看護ステーションと連携し、小さいことも気軽に相談したり、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換をしながら速やかな退院支援に結びつけている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期における医療処置の対応など、入居時や状態変化のある度に話をしている。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、消防署の協力で普通救命講習を全員が受講し、対応方法を身につけている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防署の協力を得て、防火訓練や地震想定訓練を実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や消火機器の使用訓練などを行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人全体で尊厳の保持に取り組んでおり、職員会でも入居者の誇りやプライバシーを損ねることのない声かけや対応について話し合っている。</p>		

37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提示したり、簡単に意思表示できるように工夫するなど、自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者様の生活のペースを大切に、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行っていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて、馴染みの美容室や訪問理容を利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族様や地域の方から旬の野菜をいただいたり、また自分たちで育てた野菜が食卓にのぼることもある、夏のバーベキューなどの行事ではご家族様、職員も参加し、にぎやかな雰囲気ですませよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てているが、食べにくかった食材やメニューなどは相談して、食べやすい献立になるように努めている。また普段の摂取の様子から摂取量・水分量、嗜好を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがい等の口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるようさりげなく誘導し、自尊心を損なうことのないケアを心がけている。		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>体操や、家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入居者の好きな時間に入浴ができるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはご本人様のペースで過ごしていただき、職員とも一対一でゆっくり関わりを持ち安心していただけるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様のできること・したいことを把握し、一人一人に応じた役割を担ってもらったり、楽しみ事や生きがいにつながるよう支援している。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩やドライブのほか、季節の花を見たり地域の行事に参加するなど、個々のニーズに沿った外出支援を行っている。また、ご家族様の協力も得て外出もしている。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣いを持たれている方もおり、買い物時は本人が支払う場面づくりをするなどして支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙の書ける方は毎月のお便りに書き添えてもらったり、電話で話ができる方には家族との電話を取り次ぐなどの支援をしている。また携帯電話を持たれている入居者さまもおられる。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様に家具等の配置について意見を聴くなど、自分の居場所という安心感と意識を持ってもらえるように支援し、居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や庭に椅子を置くなど、仲のよい入居者様同士で過ごせるスペースを確保している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族様の協力を得ながら家具や馴染みのもの、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾りつけるなど、居心地よく過ごせるように支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室が分かるように表札を出したりする、など入居者様が安全で自立した生活が送れるよう環境を整えている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				